

- 松山市地域振興構想 -
計画の趣旨・目的等について

<目 次>

1 計画策定の目的	1
2 これまでの主な取り組み	2
3 計画の概要	5

1 計画策定の目的

松山市は、平成 12 年から『坂の上の雲』フィールドミュージアム構想を位置付け、センターゾーン（松山城周辺）及び6つのサブセンターゾーンを設定し、これらの各地域（ゾーン）の特色を生かした回遊性の高いまちづくりを推進してきました。

特にサブセンターゾーンの「忽那諸島」「北条地域」「三津浜地区」では、地域振興のための構想・計画を策定し、重点的な施策を実施してきたほか、「松山市地域におけるまちづくり基本構想」の基本理念である「私たちのまちは私たちの手で」に基づきまちづくり協議会などを中心とした市民主体のまちづくりを推進しています。

こうした取り組みから長い年月が経ち、昨今の社会変化を踏まえ、各地域（ゾーン）の特性や課題を改めて見つめなおし、地域一体で更なる地域の賑わいや持続的な発展を生み出すためのビジョンを策定していくことが目的です。

※ 『坂の上の雲』フィールドミュージアム構想とは？

『坂の上の雲』ゆかりの地をはじめ、地域固有の資源が点在している松山市内全域を「屋根のない博物館」と捉え、回遊性の高い物語のあるまちを目指すのがフィールドミュージアム構想です。

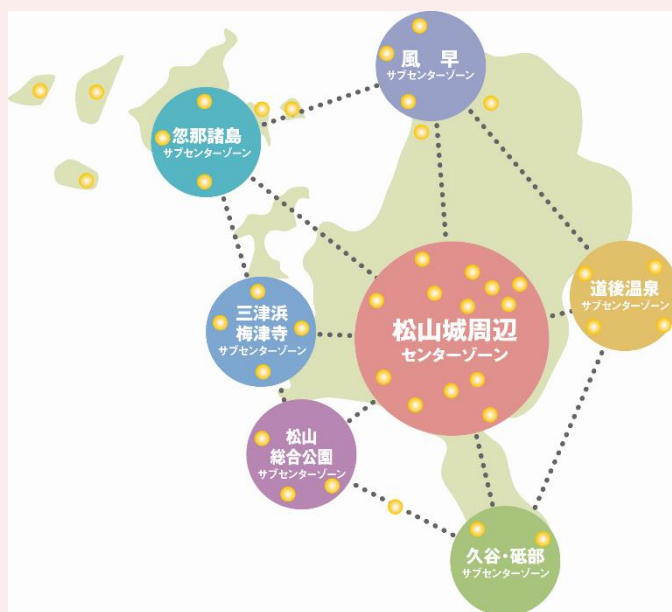
松山城を中心としたセンターゾーン、その周りに道後など 6 つのサブセンターゾーンを配し、ゾーンごとに地域資源を再発掘して“松山らしさ”を活かしたまちづくりに市民主体で取り組むものです。

<センターゾーン>

松山城周辺

<サブセンターゾーン>

道後温泉 / 松山総合公園 / 三津浜・梅津寺
久谷・砥部 / 風早 / 忽那諸島



2 これまでの主な取り組み

2-1 『坂の上の雲』のまちづくりを中心とした主な取り組み

坂の上の雲ミュージアムの管理・運営



『坂の上の雲』のまちづくりの中核施設として、「展示施設」「交流施設」「フィールドミュージアムガイダンス施設」の3つの役割を担っています。

<主な取組>

- 企画展の実施
- ラジオ等での PR
- コンサートや朗読会などのイベントの開催 など

フィールドミュージアムの周知・活用



小説『坂の上の雲』ゆかりの史跡や地域固有の資源をひとつの作品にたとえ、市内全体を屋根のない博物館として、地域を回遊してもらうために、小説『坂の上の雲』ゆかりの地をはじめとした地域資源に触れて、松山市や各地域の魅力を実感できるような取り組みを推進しています。

<主な取組>

- 『坂の上の雲』ふるさとウォーク
- 挑め！フィールドミュージアムマスター
- 『坂の上の雲』のまち松山 サイクルロゲイニング大会
- 『坂の上の雲』のまちを巡ろう！360度動画リレー など

市民主体のまちづくりに対する支援



住民主体の個性的な地域づくりを推進するため、地域資源の整備や魅力の向上、そのほかまちづくり活動などへの補助支援などを行っています。各地区における「まちづくり協議会」やNPOなどの市民活動団体が自主的なまちづくりを進めており、こうした組織の活動を支援しています。

<主な補助事業>

- 松山市地域の宝みがきサポート事業補助金
- 松山市民活動推進補助金
- 松山市地域におけるまちづくり補助金
- コミュニティ助成事業 など

<主な取組>

- コミュニティアドバイザー派遣事業
- 地域力パワーアップ大会
- まちづくり講座の実施
- NPO サポートセンターの運営
- まちづくり協議会通信など情報発信 など

特色を生かした文化・スポーツの取り組み



松山市の豊かな文学的土壌を受け継いでいくために、「ことば文化」を生かした「ことばのまち」としてのまちづくりを推進しています。また、正岡子規にもゆかりのある野球をはじめ、スポーツが盛んな特色を生かした取り組みを行い、文化・スポーツの両輪で特色あるまちづくりを進めています。



<主な取組>

- 坊っちゃん文学賞
- ことばのちからプロジェクト
- 愛媛マラソン
- 俳句甲子園
- 俳都松山俳句ポスト
- トライアスロン中島大会

移住・定住の推進 PR



松山市への移住・定住につなげるために、移住を体感できる事業やツアー等の実施、お試し移住施設の整備等のほか、移住相談支援・情報発信等を推進しています。また、松山への移住・定住人口を増やすことを目標として松山市の若者が集い情報発信を行う、マツワカの運営などを行っています。

<主な計画>

- プロジェクトチーム「マツワカ」の運営
- 移住コンシェルジュ・移住相談窓口
- お試し移住施設の整備（神浦定住促進施設、ハイムインゼルごごしま）
- 移住体感ツアーの実施

地域振興に向けた計画づくり・施策推進



地域課題を解決し、持続して発展する地域づくりを実現するため、市民主体のまちづくりを推進する「まちづくり基本構想」を策定したほか、地域振興を重点的に推進していくため、サブセンターゾーンである忽那諸島や風早、三津浜・梅津寺において、地域振興に向けた計画を策定し、計画に基づく施策を推進しています。

<主な計画>

- 地域におけるまちづくり基本構想（H18）
- 松山市愛ランド里島構想（H24） ※忽那諸島が対象
- 松山市風早レトロタウン構想（H25） ※風早が対象
- 三津浜地区活性化計画（H26） ※三津浜・梅津寺が対象

2-2 各地域（ゾーン）における特徴的な事業や取組

各地域（ゾーン）において、地域の特色や地域資源を活かした特徴的な取り組みが実施されています。

松山城周辺 センターゾーン		
<p>松山市の歴史や文化を回遊して 感じられるまちづくりの中心</p>  <ul style="list-style-type: none"> ○ロープウェー街、大街道一番町口、花園町通り、松山市駅前広場の整備など、歩いて暮らせるまちづくりの推進 ○松山城周辺を中心とした様々な文化・歴史資源の活用 		
忽那諸島 サブセンターゾーン	風早 サブセンターゾーン	道後温泉 サブセンターゾーン
<p>里島での暮らしを実感・体感 できる取組を推進</p>  <ul style="list-style-type: none"> ○「ほしふるテラス姫ヶ浜」を拠点とした集客 ○「ハイムインゼルごごしま」等を活用した移住体験等の推進 ○「里島めぐり」での各団体による島体験の提供 	<p>地域産品・自然のPRや賑わいを 創出するイベント等を推進</p>  <ul style="list-style-type: none"> ○「風早にぎわいレトロまつり」など賑わいイベントの実施 ○北条鯛めしのブランド化・PR推進 ○河野氏にまつわる歴史資源を活用したツアーなどの開催 	<p>市のシンボル・価値の継承 と道後ブランドの普及</p>  <ul style="list-style-type: none"> ○道後温泉の保存修理・整備 ○みんなの道後温泉活性化プロジェクト（アートによる道後温泉活性化） ○「ひみつジャナイ基地」を拠点とした道後温泉での交流事業の促進
三津浜・梅津寺 サブセンターゾーン	松山総合公園 サブセンターゾーン	久谷・砥部 サブセンターゾーン
<p>レトロなまちなみと食文化を 活かした地域活性化を推進</p>  <ul style="list-style-type: none"> ○三津ハマルによる町家バンクの運営 ○シェアショップ、チャレンジショップの整備 ○三津浜焼きを中心とした食のPR推進 	<p>眺望と憩いの拠点づくりの推進</p>  <ul style="list-style-type: none"> ○松山総合公園展望広場の日本夜景遺産認定 ○動物愛護施設の設置 	<p>豊かな里山の自然と、遍路遺跡 などの価値を高める活動を推進</p>  <ul style="list-style-type: none"> ○遍路宿坂本屋や国指定重要文化財「渡部家住宅」の利活用やお接待 ○フィールドミュージアムアカデミー久谷カレッジ（大学生と連携した地域資源の調査・周知・活用）

3 計画の概要

3-1 計画の主な方向性

- 『坂の上の雲』フィールドミュージアム構想に基づく、地域（ゾーン）を中心に、各地域の特性を踏まえた地域振興のあり方を示す計画とします。
- モデル的なまちづくりを重点的に進めてきた「忽那諸島」「風早」「三津浜・梅津寺」のサブセンターゾーンの取り組みを継承・発展させるための政策を検討します。
- 認定まちづくり協議会をはじめ、各地域コミュニティ組織との連携を生かし、市内全体の活性化につなげるための計画とします。
- 各地域を中心に、広く市民の意見を取り入れ、市民参加を促進するとともに、将来のまちづくりの目標や方向性を広く共有できるものとします。

3-2 計画の主な構成

①基本構想	松山市の地域振興に向けた現況・課題を整理した上で、必要なまちづくりの方向性や、各地域（ゾーン）における基本目標・政策を掲げる。 計画期間：10年間（令和7年度～令和16年度）
②実施計画	各地域（ゾーン）で掲げた基本構想の目標・政策に基づき、主要な事業（取り組み）の内容などを整理する。 計画期間：3年間※ただしローリング方式により毎年改定

3-3 本懇話会の位置づけ・役割

本市が策定する松山市地域振興構想及びその計画策定の過程において、松山市のまちづくり等に携わる皆様の視点から、松山市の今後の地域づくりに向けて必要な政策等、ご意見を頂き、本計画を通じた地域づくりに向けて、地域づくりの仲間に周知頂けたらと考えています。

主な役割は以下の通りです。

①松山市・各地域（ゾーン）の状況や課題などの認識・意見

参加者の皆様の立場から、松山市や各地域（ゾーン）で抱えている問題点や課題、地域ニーズなどについて、ご意見等を頂ければと思います。

②目指すべきまちづくりの方向性や必要な政策への意見

基本構想で示す、松山市や各地域（ゾーン）のまちづくりの方向性や政策などについて、ご意見を頂くとともに、今後松山市や市民自身が取り組むべきまちづくりなどについてご意見頂ければと思います。

③計画の周知・共有

各地域におけるまちづくりの推進や、まちづくりに関わる仲間を増やしていくために、本計画および本計画の策定過程等について、地域づくりに関わる関係者に周知・共有いただければと思います。

3-4 計画策定に向けた実施内容及びスケジュール (現時点想定)

	令和 5 年度								令和 6 年度											
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
現状・課題の分析	現状・課題整理				意識調査				地域住民への意識調査 各地域のまちづくりに関する状況やお考え等をお聞きする地域住民アンケート						パブリックコメント					
市民ヒアリング・ワークショップ キックオフシンポジウム	地域ヒアリング 忽那諸島/久谷/北条/三津浜を対象として、地域の課題や必要なことを話すワークショップ				全体ワークショップ 各地域が集まり、地域のまちづくりの目標や必要な取組などを、地域の枠を越えて話し合うワークショップ				まちづくり醸成に向けたワークショップ 地域づくりや計画を周知していく方法・伝えていく方法を検討するワークショップ								キックオフシンポジウム 策定する基本構想に基づき、各地域でまちづくりを推進していくためのシンポジウムを開催。			
地域振興構想の作成	基本構想案の作成												修正・調整							
懇話会の開催 (予定)	第1回 (本日) 策定の趣旨・経緯やスケジュールの共有		第2回 現状や地域ヒアリングを踏まえた課題の共有		第3回 まちづくりの方向性や計画書の構成等の共有		第4回 政策・施策の整理案共有		第5回 まちづくり醸成に向けたWSの内容共有		第6回 計画書全体の確認 (パブリックコメント案)									



愛ランド里島構想の振り返り

1 計画の目的・策定趣旨

- テーマ：島びとが生き活きと輝く笑顔あふれる里の島
- 計画期間：平成24年4月～
- 島びとや行政がまちづくりを進める上での重要な指針として、松山市島しょ部の持続的な発展と活性化を目的に策定。この構想に基づいて、島びとや地域などと行政が協働し、島びとが生き活きと輝き、豊かな心で暮らせる笑顔あふれる里の島づくりに取り組みます。

2 主な取り組みと成果

○基本政策① 産業が輝く笑顔あふれる里の島

- ・島しょ部の基幹産業である農業・漁業の振興のため、有望品目の導入支援や漁業集落への支援、魚礁施設の設置等により、農業生産や漁家所得の向上、漁業世帯数の維持につなげた。
- ・リニューアルオープンした「ほしふるテラス姫ヶ浜」とあわせて、民間主導で実現した水上アスレチックにより、集客につながっている。

○基本政策② 環境が輝く笑顔あふれる里の島

- ・離島航路の維持確保をはじめ、高潮対策等災害への安全性の確保や自主防災組織への支援等により地域防災力を向上させるなど、交通ネットワークの構築及び安全・安心のまちづくりを進めた。
- ・SDGs 未来都市のスマートアイランドモデル事業として、中島へグリーンスローモビリティ及びソーラーカーポートを設置するなど、環境を生かした取り組みを実施した。

○基本政策③ 地域が輝く笑顔あふれる里の島

- ・島しょ部の独身男性と島外の独身女性を対象に出会いの機会を創出する事業や、ハイムインゼルごごしま（興居島）、神浦定住促進施設（中島）といった旧小学校や教員社宅の跡地に移住希望者に向けたお試し移住施設を整備するなど、島しょ部の定住人口増加に向けた取組を実施した。
- ・釣りや地引網、果樹栽培など島しょ部ならではの体験の受け入れ態勢を整備し、交流人口の増加を図っている。

○基本政策④ 教育や文化が輝く笑顔あふれる里の島

- ・中島中学校隣接地への寄宿舎の新設や松山北高校中島分校の給食提供を開始するなど、教育面での利便性を向上させるとともに、島外からの生徒の受け入れ態勢を構築している。
- ・トライアスロン中島大会の開催により、中島地域の活性化や交流人口の増加が図られた。

○基本政策⑤ 福祉が輝く笑顔あふれる里の島

- ・島しょ部の診療所の施設維持管理をはじめ、離島診療連絡船や消防救急艇の運営など、安全・安心な救急医療体制を維持確保したほか、母子保健支援によるサポートや妊婦検診時の船賃の助成、買物支援による見守りやミニデイサービスの実施による外出機会の創出など、誰もが安心して暮らせる里島の実現に向けた取り組みを実施した。



風早レトロタウン構想の振り返り

1 計画の目的・策定趣旨

- テーマ：昭和の賑わいを求めて
- 計画期間：平成25年4月～
- 北条地域は、歴史や文化、自然など魅力あふれる地域ではあるものの、鹿島への渡船利用者が年々減少傾向にあるなど、資源の魅力を十分に引き出せていないほか、松山地区への通勤・通学による昼間人口の減少などにより、かつてのにぎわいが失われている。このような現状を踏まえ、北条地域が抱える課題解決に向けた取り組みを進めることで、住民一人ひとりが笑顔で暮らせる活気ある地域を目指す。

2 主な取り組みと成果

○中核エリアー『鹿島』 Re 鹿島

- ・北条鹿島博物展示館（かしまーる）の改修及び展示内容の充実、展望台へ続く登山道の維持管理、フリーWi-Fiの設置やトイレの洋式化など、鹿島を訪れる人の利便性や満足度の向上を行った。
- ・「ここ夏 鹿島！海開きフェスタ」や「犬鹿島」など、鹿島でのイベントを通して多くの方が訪れるきっかけづくりや鹿島の魅力のPRを行った。こうした取組に加え、近年のキャンプブームもあり、一時期年間3万人まで減少していた鹿島渡船の利用者数は、平成26年度以降は5万人を超えた。（令和2年度以降はコロナ禍により、利用者数は5万人を下回っている）



○中核エリアー『駅前通り周辺』 期待をカタチに

- ・風早活性化協議会が、キャンペーンや各種イベントへの出店、情報誌への掲載など「北条鯛めし」のPRを継続して実施した結果、令和3年度に、文化庁が新しく認定する100年フードの「伝統の100年フード部門」に認定された。
- ・風早にぎわいレトロまつり（R元年度から河野別府公園へ移行）や駅前土曜夜市、楽市など、風早活性化協議会や北条地区まちづくり協議会などが駅前通りでイベントを開催することで、賑わいと地域住民の交流を創出し、地域の活力を育んだ。また、JR伊予北条駅前～鹿島までの観光道路を中心に花を植えたプランターを設置するなど、魅力ある景観づくりにも努めている。



○広域エリア

- ・暮らしを支える道路環境や地域防災力の向上を図るため、適切な箇所に必要な整備を行った。
- ・北条地域の7地区それぞれの特色を生かした取り組みを実施するほか、多様な媒体を活用し、北条地域の魅力を広くPRした。
- ・令和5年5月に風早活性化協議会を再編成し、まちづくり協議会や公民館、各区長会長が主体となった「風早まちづくりネットワーク」を設立。北条地域全体の活性化を図るため、7地区それぞれの特色を生かしたまちづくりに取り組むとともに、地区と地区の連携や枠を超えたコミュニティを構築する。

三津浜地区活性化計画の振り返り

1 計画の目的・策定趣旨

- テーマ：新たなにぎわいと交流の創出に向けて、魅力的なまちづくりに取り組んでいきます
- 計画期間：平成26年4月～
- 地域や住民の動きを尊重しながら、地域の振興を図ることを目的として、三津浜地区の地域住民や民間によるまちづくりへの機運を一層高めるとともに、三津浜地区のにぎわいの創出や交流人口の拡大を図るための活動の指針とする。

2 主な取り組みと成果

○活性化方針1 地域資源を活かし、住民自らが活動できる環境づくりに取り組みます

- ・民間による街並みや景観整備に対する補助事業を創設し、計19件の物件を整備したほか、三津浜にぎわい創出事務所「三津ハマル」を創設し、三津浜地区の古民家や町家などの空き家情報の収集及び所有者と入居・開業希望者とを結びつける町家バンクの仕組みを構築し、これまで計98件マッチングに成功するなど、三津浜地区の魅力の維持や向上を図ることができた。
- ・魅力ある地域資源を活用したイベントを開催するとともに、三津浜地区の活性化に寄与する活動を行う団体に対する補助事業を創設し、のべ12件の事業を支援するなど、新たなまちづくり活動の芽を育てながら、住民自らが住んで楽しいと感じられるまちづくりを推進した。



○活性化方針2 外から「行ってみたい」「住んでみたい」と思わせる「魅力」づくりに取り組みます

- ・三津浜焼きをはじめとするご当地のこなもんグルメを集めたイベント「全国ご当地こなもんサミット」を開催し、三津浜焼きのPRや地区の認知度向上、誘客促進を図るなど、三津浜焼きのブランド化を推進した結果、鉄板会議2022全国会議で三津浜焼きの「台付き」が「文化を味わう！コナモン100選」に、文化庁が認定する100年フードの「近代の100年フード部門」に選ばれるなど、全国に三津浜焼きが認知された。
- ・チャレンジショップやシェアショップを開設するほか、町家バンクとも連携することで、三津浜地区内への新規出店を促進した。こうした取組により、開業を契機に市外・県外からの移住促進にもつなげることができている。また、商店街周辺にローカル5Gを整備したり、高速フリーWi-Fiを設置したりすることで、観光客の利便性の向上にもつなげている。



○活性化方針3 多様な「住民」が活躍できる体制づくりに取り組みます

- ・三津浜地区の地域資源を活用して制作した動画は約60万回の再生回数を記録した。また、動画へのアクセス分析や他のSNS媒体も活用したプロモーション、まちづくり協議会と連携し、三津浜フォトコンテストの支援を行うなど、動画をただ公開するだけでなく、地区へのさらなる誘客につなげる取組を実施した。
- ・地区の空き家活用を促進していくための中間支援組織の設立にむけて、民間事業者と協議を行ってきたが、設立には至っていないため、引き続き協議や支援を進めていく必要がある。

※数値については、令和5年3月31日時点